

簡易化されたゲームで広がるアダプテッドの可能性 ～キャスターラグビーの実践～

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

学習に得意な子もいれば、苦手に感じる子もいます。それは運動も同じで、体育の授業には運動が得意な子もいれば、苦手な子もいます。だからこそ、誰一人取り残すことなく授業を成立させることが重要です。

学習指導要領解説では、小学校中学年における「簡易化されたゲーム」について、次のように述べられています。「プレイヤーの人数、コートの広さ、プレイ上の制限、ボールを含む運動用具・設備などを修正し、児童が取り組みやすいように工夫されたゲームである。」

この考え方を踏まえ、低学年のゲームとして キャスターラグビー（体育座りラグビーを含む）に取り組みました。

＜キャスターラグビー＞

この実践は本校ホームページ「体育専科の取り組み」で紹介している「25.3 人の動きのスピードを工夫したオフ・ザ・ボールの学習」を参考にしています。体育座りやキャスターの上に座るなど、移動速度に制限をかけることで、状況判断が難しい子でもプレイしやすくなるという特徴があります。



ロイロノートで使った作戦ボード
おとり作戦やパス作戦など出てきました。



昨年度の体育座りラグビーでは「お尻が痛い」という子がいたので、今年度は作業用のキャスター付き座椅子を購入。ボールはいキャッチミスがほとんど無い、新聞紙をレジ袋で包んだレジボールで実践。



タグラグビーではタグを取られないようにと下がる子が見られますが、このキャスター ラグビーではボールを持って下がる子は見られませんでした。



人の動きがゆっくりだから、状況の変化も緩やかに

どこに動けばよいか理解しやすくなりました。